

Digital Camera 倶楽部

OCT 2017
Vol.142

マウントアダプター

一眼レフの一番の特徴はレンズの交換が出来ることです。

しかし、一つのメーカーを選ぶとそのメーカーのレンズしか使えません。(レンズだけのメーカーは各カメラメーカー用に作っていますが、同じ様にそのカメラメーカーのカメラにしか使えません。)

それはレンズの取り付け部 (これをマウントと言います) がメーカー毎に違うからです。最近のカメラは大体 3/4 回転くらいで取り付けられる、バヨネット方式のマウント形式が主流ですが、以前はネジ式のマウントを使うメーカーもありました。

また、同じカメラメーカーでも、入門機や最近のミラーレス一眼カメラなど機種によっては専用のマウントにして、互換性の無い場合もあります。

フィルムカメラ時代から写真を趣味にしている内に、何台ものカメラを購入して用途に応じてカメラメーカーも違うためにレンズの本数も増えてしまいました。

カメラ本体はデジタルで特徴のあるレンズを使いたい。そんな時に役に立つのがマウントアダプターです。

接写にはフィルムカメラ時代にオリンパスのマクロレンズを使っていました。オリンパス光学工業は顕微鏡メーカーとしても有名で、胃カメラを開発したことで知られ、マクロ撮影の解像度は定評のあるところでした。

そのマクロレンズをどうしても生かしたいので、マウントアダプターを購入して、キャノンのデジタルカメラ本体に取り付けて使っています。

フィルムカメラ時代に無理をして買った、90 mm f2.0 の明るいレンズで、どこへ行くのにも持ち歩きました。それがこの様な形で使えるのはとても嬉しいことです。

但し、この時代物のレンズですから、本体がデジタルでも当然電氣的な連動はしません。絞りもピント合わせも自分の目と経験値を頼りに楽しみながら撮影しています。

このレンズを使う時には、当時を思い出して心が弾みます。

また、ドイツのCarl Zeiss財団のカメラメーカー ツァイスイコンのカメラとレンズも何台か蒐集しました。

このメーカーは世界的に有名でレンズの設計思想もドイツらしい堅実・堅牢なものがあります。何年か前に白内障の手術を受けた時に、手術室の機械がツァイスのもので、手術前に医師と話して盛り上がり、メーカーへの信頼と安心感でリラックスして手術を受けることが出来ました。

話がそれましたが、このツァイスレンズもマウントアダプターでキャノンのデジタル本体にセットして使っています。勿論これも絞りとピント合わせは自分の目と経験値を頼りに撮影しています。

この便利なマウントアダプターは ケンコー や 近代インターナショナル が色々なメーカーの本体とレンズの組み合わせのものを販売していますので、利用してみてください。



野口 強のページ

朝顔ときのこと(秋の季語)



きのこの女王きぬがさ茸



金井陽子のページ



北杜市 神代桜



星峠の棚田

森恵美子のページ



晴海埠頭の暑い夏



隅田川華やかな時

瀧 亀久男のページ

木曾駒ヶ岳・千畳敷カール散策

8月初旬、デジカメ倶楽部合同日帰り撮影会に参加して、久しぶりに千畳敷カールを訪れました。美しい花々、雪溪の姿等を思い出しながら登頂しましたが、雲の多い日に遭遇してしまいました。雲の通り過ぎる間に美味しい空気を沢山吸って来ました。



宝剣岳(2931m)も雲の中でした



撮影会の安全・安心を祈願しました



雲の流れの合間に



駒ヶ根高原バスセンターからしらび平駅までの路線バスではサルの群れに遭遇
ロープウェイも快調に運行絶景を堪能しました。トレッキングは、足元不安の
ためパスして、千畳敷駅レストランにて野沢菜づけと地酒で一時、晴れ間待ち



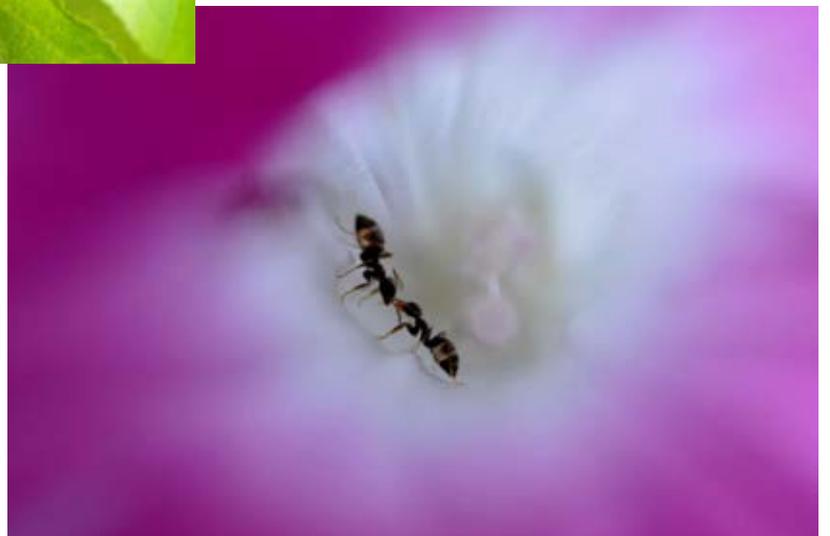
谷元範章のページ

カミキリ虫



タマムシ

アリ,の挨拶中かな



雨上がりの水滴



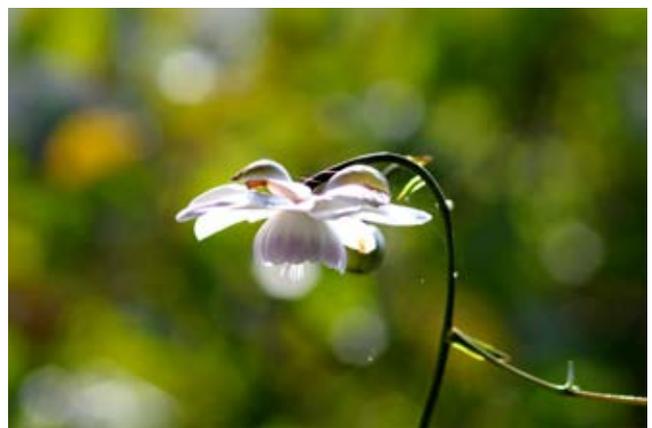
風でゆれてる,彼岸花



朝顔



レンゲシオンマの花



サルナシ



岩永精一のページ

7時半前後から納涼船等の行き来が多くなりました



9月入って道端で丁度見頃のヒマワリを見つけ写してみました



梅崎 桂子のページ

マクロの世界

平成 29 年 8 月 撮影

長雨の中で
庭の草花は
輝いていました



細川隆雄 撮影のページ

花びらを咲かせてみました。

9月号



琉球あさがお





高原の黒ユリ



武富 正義 の ページ 「初秋の花」





横浜中華街
雑貨屋の店先(上)
某飯店の提灯と
彫刻壁画(中)
富士山五合目付近の
登山道(下)



新井定夫のページ

我が家の「庭」に 元 石巻市立大川小学校3年生 (故)佐藤 健太君の 朝顔 が咲きました。

小さな家の軒下に、赤紫の朝顔が満開だ。宮城県 石巻市 の佐藤とも子さん(50)が育てている。植えたのはひとり息子の健太君がとっておいた種。3年前の3月11日、津波で児童の7割が犠牲になった市立大川小学校の3年生だった。残された種はめざめ、花を咲かせた。東日本大震災 が発生した時、学校にいた健太君は、地震後約50分間、教職員らと校庭にとどまり、津波に襲われた。(2014年7月30日 朝日新聞の記事を引用)





吉次宣哉 のページ
相模原北公園 満開のあじさい



平塚七夕祭り 見応え有る飾り



上 田 良 光 の ペ ー ジ

季節は何時しか夏から秋へ・・・蝶から赤トンボ



横浜マリンタワーから観る横浜港と高速道路

